

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2024 年度

# 北海道千歳リハビリテーション大学 一般選抜試験（前期日程）

必修科目

## 国語総合

### 注意事項

- 1 文字や記号は明確に判読できるよう丁寧に記入しなさい。
- 2 この問題冊子は、11 ページあります。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
- 4 問題冊子は最後に回収します。

第一問 次の本文を読んで、後の問いに答えなさい。

◆あらすじ

戦後の混乱した社会状況下、洞爺丸事故の際、道内岩内町の質屋一家殺人事件に関わった犬飼多吉と彼を助けた杉戸八重、更には犬飼多吉を追う二人の刑事についての小説。事件は迷宮入りになるかと思われた。

歳月が過ぎ、犯人の犬飼多吉は、名前を樽見京一郎と変え、質屋一家殺しで得たお金をもとに事業家として成功し、罪の罪悪感から逃れるため、篤志家となる。事件当時、犬飼に温情をかけた杉戸八重は、犬飼が礼として与えた多額の現金で借金を返し、東京で生活する。八重はある日、新聞で、犬飼の記事を見つけ、今までの感謝を伝えようと彼の住む舞鶴に行くが、罪の露見を恐れた犬飼に殺害される。八重の殺害で、事件は解決に向け動き出し、二人の刑事は犬飼を追い詰める。本文は犬飼の自供の場面である。

京一郎の眼ににじみ出た涙が、汗と一しよくたになつて両頬をつたつた。京一郎は無言の警官をにらみつけてつづけた。

「わたしは、弓坂さんが、わたしのあとを追跡していることをあとで知つた。なるほど、弓坂さんにしらべられたとおり、私は、下北の仏ヶ浦にあがつた。いや、あがつたというよりは、深夜の**A岩壁**にたどりついたんだ。ようやくたどりついたんだ。疲労しつくしていたからだ體を、

わたしは岩の上に横たえていると、あすは、いさぎよく警察に届け出て、真相をうたえようという心と、いや、これを機会に、五十万円の大金をにぎつて、お前は出なおすんだという悪魔の心のささやきとで、わたしの頭の中は、いつまでも格闘していた。わたしは、しかし、つかれ切っていた。知らぬまに寝こんだらしい。しかし、翌朝になつて、あの仏ヶ浦の岩壁に、輝かしい朝日が照りつけているのをみた時……、黄金の色の光がさんさんと海にふりそそいでいるのを**aナカ**めた時……、わたしは生きようと思った。太陽の光が、わるいこと

をした人間の頭にも、海にも、このようにふりそそいでいる。人間はわるいことをしても、それが、結局誰にも知れなかったら……神さまにしか知れなかったのなら……その神さまに誓つて……自分は二どとわるいことをしないように生きることができないか。人を殺しても、世の中のために生きることが出来るということのためにしてみよう。私は決心したんだ。世間をあざむき通して生きようと思った。わたしは、舟を破壊した。そうして、その木切れを山へはこんだ。山の中で焚火をして焼いた。弓坂さんのいわれたとおり、わたしは釘一本

も残さなかった。物証を一つでも残したら、おれは生まれかわることは出来ないのだぞと心にいきかしながら、長いあいだかかって、舟の**B痕跡**をすっかりこの世から消すことに成功した。そうして、わたしは牛滝の村を通って、野平のだいに出て、畑はたへいった。森林軌道の上で、はじめて杉戸八重さんに会った。飢えたわたしに、ギン飯のむすびをくれたのが、八重さんだった。あのころ、わたしに、誰がひとにぎりの飯を無償でくれたろう。わたしは、この行きずりの女に感謝した。そうして、川内で別れたが、どういう偶然か、大湊にきて女郎屋をさがしていた時に、ぱったり八重さんとあった。……なるほど、味村さん、あなたがいま、そこにもつておられる**A証物**は八重さんのものにまちがいはない。わたしがあげたものだ。わたしはあの日、八重さんに風呂へ入れてもらい、髭もそり、手の傷を繻帯ほうたいしてもらった。そうして、警察の眼をのがれて、東京へ入りこむことができた！……それからのわたしの人生にも、苦労はあった。しかし、金があったから、とんとん拍子に事業はうまくいった。ただ頭の中に、あの津軽海峡の悪魔の時間がよみがえらない日はなかったけれども、わたしは時間がすぎるにしたがつて、すべてを忘れてゆこうと努めた。忘れるためには、なるべく善行を**bボドコ**し、人のために、世の中のためになすることをする以外にはないと思った。(中略)私の事業はうまくいった。そうして十年目にわたしは、ふと、あの津軽海峡で死んだ木島と沼田は**cアワ**れな奴だと思うようになった。あの男たちが、凶暴な強盗放火をやったのも、結局、生きるためだった。網走の刑務所を出て、前科者よばわりをされて故郷に生きるよりも、何とかして、北海道にしがみついて生きたいと願ったあの男たちの悪あがきが、あのような大それた犯罪となったことを思うと、わたしは、この世の中に、刑を終えて、復帰しようとするいくたの人たちが、みな、木島や、沼田のような境遇の中で苦しんでいることを知った。政府が、刑余者に何もしてやっていないからだ。そのことを考えると、ふと、わたしのもうけた金の一部を、**イこの運動**に寄付したいと思った。そこで、わたしは、三千万円の金を献金することを申し出たんだ。私の売名のための行為などでは決してない。木島、沼田のあの断末魔の**C形相**を忘れ去るためには、わたしは、永遠にこのような善行を、石を積むように重ねてゆかねばならないと心にきめて、その第一歩に、刑余者更生事業の礎石に一役買おうとしたんだ……たしかに、わたしは、杉戸八重さんが、東京に暮らしていて、この新聞をよんで、とんでくるであろうことなど、夢にも考えていなかった……ところが、この六月七日に、八重さんが、新聞をみたといつて、とつぜん訪ねてきた時には、びっくりした。いや、動顛どうてんした。狼狽ろうばいしたわたしは、妻を外に出して、ふたりきりで会った。**ウその時**、わたしは、八重さんに、**犬飼多吉**という男は知らないうそと嘘をついた。いまになって思えば、なぜ、正直に、八重

さんに久しぶりだったと素直な言葉が出せなかったのだろう……残念でたまらないが、実際に私の口から出た言葉は、自分は犬飼ではない、あなたなどは知らない、シラを切る冷たい言葉でしかなかったのです。八重さんは眼に涙をうかべて、私の顔をにらんで……こういった……わたしはかなしい娼妓をしてきた。大勢の男を相手にして十年くらしてきてきた。男の思い出はいくたりもあるが、犬飼多吉という人の顔だけは忘れはしない。生涯の恩人だから……いま、樽見さん、あなたの顔をみてみると、私の體が、あなたを知っているという……あなたが犬飼多吉だといっている……私の體が知っていると、八重さんは**エわたしをにらみつけているのです**……この時、私は**オ恐怖**に打ちのめされた。もし、このまま八重さんを帰してしまったら、この女は東京へ帰る途中で、警察へいって、何をしゃべるかわからない。樽見京一郎は昔、大それた悪事をやった男犬飼多吉の生れ代りだといふらせば、わたしの今日の地位は奈落につき落とされる。わたしの生命は惜しくはないけれど、せっかく軌道に乗りかけた堀株開拓村はどうなるのか。あの開拓村の西洋野菜農園が健全に一本立ちになるまでは、おれは死んではならない。おれはまだ、仮面をかぶって生きつづけねばならない。そう思ったとたんに、私の頭に八重さんを殺そうという恐ろしい計画が生れた。わたしは自分で紅茶を淹れにたった。八重さんを殺した上に……私の従順な召使であった竹中をまきぞえにするこ  
とによって……ふたりの偽装心中をたくらんだ。このことは、たしかに成功したかにみえた。しかし、**カこの第二の新しい魔の時間**が、わたしを新しく**キ責めさいなみ**はじめたのです。今日に至るまで、わたしは一睡もしていない。味村さん。あなたや、弓坂さんの執念にも似た**dソウサ**追及に、私は頭を下げる。世の中をだまそうとして今日に生きながらえてきたわたしは、世の中をだますためにまた新しい殺人をやった。津軽海峡での木島と沼田は、わたしが殺したのではないといきまはることは出来るが、かわいそうな杉戸八重さんを殺したのはわたしだ……どうか、わたしを刑場へはこんでいただきたい……わたしは、いま、そこにもつてこられた**ク古新聞**と、**安全剃刀**をみた時に、**ケ私が今日までの人生に格闘してきた意地のようなもの**が、**無力であったこと**を知った……、三千万円の刑余者更生への寄付も堀株農園の再興も、それらはそれなりに世の中のためになる事業ではあっただろう。大ぜいの人が救われることにはなると思うけれど、今や、私は、八重さんの**㊦行李**の底にのこしていたその古新聞と剃刀に託されている私への純真な温かい心のことを考えると、人生に尊いものは、真実の

**(注)**行李こまが 竹や柳で編んだ箱形の物入れのこと

心以外にないということを悟ったのです。味村さん、わたしがいま、ここに一切を**D吐露**して、頑強がんきょうにかくし通してきた鉄壁のような城を自らの力で打ちやぶる決心がついたのは……その……わたしが、十年前に手渡した金を包んでいた古新聞と……私の髭を剃った安全剃刀……にかけられていた尊い八重さんの心にまけたからなんだ。八重さんにはすまないことをした。……味村さん。わたしはあなた方に屈服したわけではない。わたしは、八重さんの真情に打たれて真人間になり得た……そのために……自白の勇気が出たんだ」

樽見京一郎は、これだけのことをとつとつと喋しゃべりおえると、机の上に面をふせて、頭髪をかきむしってうなだれたのである。

(水上 勉『飢餓海峡』昭和三十八年)

問一 AからDまでの傍線―の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 aからdまでの傍線―のカタカナを漢字に直しなさい。

問三 傍線ア―について、後ろの文章で、二つの具体的な物が示されているが、それを本文中から抜き出しなさい。

問四 傍線イ―について、その内容を示す言葉を本文中から抜き出しなさい。

問五 傍線ウ―について、なぜ嘘うそをついたのか。本文の内容をもとに、その理由を三十字以内で書きなさい。

問六 傍線エーについて、本文の内容をもとに、八重がなぜにらみつけたのかの理由を「〜という思い」という形で三十字以内で説明しなさい。なお、制限字数の三十字に「〜という思い」は入れないものとする。

問七 傍線オーについて、それはどのような恐怖なのかを本文の内容から具体的に説明しなさい。

問八 傍線カーについて、最初にそのようになった時間を十二字以内の語句で本文中から抜き出しなさい。

問九 傍線キーの言葉は、「責めさいなむ」という言葉が元の形だが、どのような意味なのか、ふさわしいものを次のわくの中から選び、その記号を書きなさい。

イ 責任をおうこと

ロ あれこれ批判すること

ハ 責任を果たすこと

ニ ひどくおびえること

ホ ひどく苦しめること

問十 傍線クーについて、「わたし」はそれらのものに八重のどのような心が表れていると感じたのか。本文からその語句を抜き出しなさい。

問十一 傍線ケーのようになったことで、本人はどのようなことが分かったのか、それを二十字以内で抜き出しなさい。

第二問 次の本文を読んで、後の問いに答えなさい。なお冒頭の太字は各文章の見出しである。

◆本文中の「痴呆」の「認知症」への読み替えについて

平成十六年以降、厚生労働省の提唱により、「痴呆」という言葉が「認知症」という言葉になりました。本文では、当時使われていた「痴呆」という言葉が出てきますが、「認知症」という言葉に読み替えてください。意味は全く同じです。

◆【本文A】【本文B】の冒頭の語句は、本文の見出しになります。

## 【本文A】

### 家族の心の変容

人類が長生きできるようになった結果として、当然、痴呆ちほうの問題が大きくクローズアップされるようになってきた。八十五歳から八十九歳の老人では、二十一・六パーセントの方が痴呆になっているデータが報告されている。長生きのオリンピックに勝ち抜いて得た勝利が、痴呆だったのかもしれない。

アルツハイマー病の患者は、世界に千五百万人以上いるといわれている。日本では、三十万人のアルツハイマー病の患者を含めて、百万人の痴呆老人がいる。

痴呆とは、一度獲得された知的な能力が、器質的な脳の障害により、日常生活に支障を（ア）（イ）ようになった状態といわれている。痴呆の初期段階は**象徴的な**症状として、昔のことはよく覚えていのに、新しいできごとを覚えられないという短期記憶障害がよく現れる。

ぼくが治療していたアルツハイマー病のおばあちゃんも、同じような症状が出ていた。病気が徐々に重くなっていく。朝食に何を食べたかもまったくいえなくなってしまった。

もともと俳句を趣味にしていた方だったので、痴呆が軽いうちは、作った俳句を外來診察にきたときに見せてもらいながら、社会性を失わないように指導していた。しかし次第に俳句が作れなくなっていくた。

つぎに家族の誰かに見てもらって、日記を書いてもらうと、当初は大変よい効果を生んだ。痴呆の進行を少し止められるかと楽しみにしたが、この日記が問題を起こしはじめた。

友人の葬式に行った日に、忘れないように日記に書いてくれたが、日記帳を開いたときには昼間のことはすでに忘れており、「友人の見舞いに行ってきた」と書かれていることに、息子さんは気がついた。

翌日、死んだはずの友人のところへ遊びに行くと言い張り、家族は困ってしまった。

別の日、水道局の集金人が来て、一人で留守番をしていたおばあちゃんが自分で払ったが、日記には「嫁に一万円渡して、自分の好物を買ってくるように命じた。でも嫁はだまして何も買ってきてくれなかった」と、うらみの言葉が書かれている。

錯話だ。事実無根の作り話も、一度文字に書かれてしまうと、何度説明しても、かえって **aアヤマリ** を認めづらくなってしまった。書かせた日記が足を引っ張った。

家族も疲れてきた。こんなとき現代の医療は無力だ。痴呆を治すことはなかなかできない。ぼくたちの仕事は、家族を支えることにシフトしていく。

「神奈川県ぼけ老人をかかえる家族の会」の田中まさ子さんとお会いしたとき、第一ステップ「とまどい、否定」、第二ステップ「混乱、怒り、拒絶」、第三ステップ「あきらめ」、第四ステップ「**bジュウウ**」と、揺れる家族の心の内を体験談として教えてくれた。

ぼけた実母を看ていた田中まささんは、混乱して疲れ切り、あきらめ、すべてを投げ出そうと思ったとき、京都で活躍しておられる、ぼけ老人のよき理解者の早川一光先生にお会いし、肩を **cカ** かれ、ひとこと「よくがんばってきたね」といわれた。このひと言が絶望から救い出してくれた。田中さんは自らの経験から、このような **ウよき理解者** がどうしても必要だと力説している。痴呆性老人を支える家族の、よき理解者を地域で育てていく必要があるように思う。



## 【本文B】痴呆性老人を在宅で看取る

明け方の五時、ぼくの家の電話が鳴る。お嫁さんのあわてた声が聞こえてきた。「おばあちゃんの息がおかしいんです。先生すぐに来てください」

エンドステージになると、家族の安心のために自宅の電話番号を覚えておく。二十四時間体制の当番の保健婦に連絡をとって、患者宅にそれぞれが直行する。呼吸は停止していた。しかしぼくらは心臓マッサージもしない。もちろんdテンテキなどもしない。心臓が動いていないこと、対光反射がないことを確認し、死亡を認定する。すでに家族だけでなく親類や近所の人たちが大勢、おばあちゃんの床の周りを囲んでいる。

**Eお嫁さんの名前を呼ぶ。** 後ろのほうに小さくなって座っていた彼女が、おずおずと前に出てくる。

「ほんとうによく見てあげたね。ぼけてから七年、おばあちゃんも大変だったけど、**A床**ずれひとつなく、こんないい顔であの世に行けて、おばあちゃんは幸せでもんだな。長い間、こころうさま」

**オ徘徊の時期には、このお嫁さんは何度も村じゅうを探しまわり、疲れ果てていた。** ぼくが往診に行くと家じゅうに鍵がかかり、目もうつろなお嫁さんが痴呆のおばあちゃんと部屋の片隅に座っていた。あの光景が今も忘れられない。

見かねて、精神科の先生に、お嫁さんをバックアップしてもらったこともある。また東京にお嫁にいったおばあちゃんの娘が里帰りしてきたとき、「嫁はわたしにご飯をくれない」と訴えたので、娘は誤解して手厳しく嫁さんに嫌味をいったらしい。

たび重なる気苦労で、ストレス性**B潰瘍**になってしまったお嫁さんが、それでも必死におばあちゃんを支えていたのをぼくは知っていたので、みんなの前で彼女に「ありがとう、ご苦労さま」と伝えたかった。

医者役目というのは、生きるか死ぬかのに時に助けることが第一の仕事だと思っているが、命が途切れるときに臨終を確認する役でもあり、故人と関係のある人々が、その死を境にみんながどう生きていくのかいっしょに考えていくことも、医者の仕事かもしれないと最近

考えている。

医療の仕事は、「生」を支えると同時に、「死」をどのように支えるかということも問われているように思えてならない。

医という字は、かつて醫と書いていた。いくつかの解釈があるようだが、医は矢を引くということ、人間の「技術」を示し、爰は役の一部で「奉仕」を示し、酉は神に酒を奉ること、<sup>ま</sup>「祈り」や「癒し」を示しているともいわれている。

醫から医に字が変わったときに、医療は本来もっていた「技術」と「奉仕」と「祈り」のD三位一体を忘れ去り、技術に走っていったのではないだろうか。医療がかつての技術と、奉仕と、祈りをバランスよく取り戻したときにはじめて、痴呆性老人や末期がんの患者さんをやさしく看ることができるのだと思う。

技術中心の今の医療では、痴呆性老人や末期がん患者を支える力は弱い。医学や科学はすばらしい進歩をとげ、長生きができるようになったが、これで果たしてよかったのだろうか。

(鎌田 實『がんばらない』平成十二年)

問一 AからDまでの傍線の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 aからdまでの傍線のカタカナを漢字に直しなさい。

問三 (ア)には、「支障を」という語句に結び付き、さしさわりがある状態を指すひらがな三字が入る。その言葉を書きなさい。

問四 傍線イーの類義語について、ふさわしものを次のわくの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 確定的な      イ 通常的な      ウ 類型的な      エ 代表的な      オ 例外的な

問五 傍線ウーは誰に対しての「良き理解者」なのか、本文中から十五字以内でそれを抜き出しなさい。

問六 傍線エーについて、なぜそのようにしたのかが表れている一文を見つけ、最初の五字を抜き出しなさい。

問七 傍線オーの様子について、筆者はそれをおばあちゃんに対するお嫁さんのどのような行動ととらえたのか。それが表れている箇所を二十字以内で抜き出しなさい。

問八 【本文B】の文章では、筆者が医療について思っていることが書かれている。本文の内容をもとに次のわくの(①)と(②)に当てはまる言葉を入れなさい。

医療は「生」を支えると同時に「死」をどのように支えるかも(①)ていて、「技術」と「奉仕」と「祈り」は(②)である。

問九 【本文B】の文章において、筆者が医療の在り方として考えていることが表れている一文を見つけ、最初の十字を抜き出しなさい。



受験番号

第二問

問一

A		B		C		D	
---	--	---	--	---	--	---	--

問二

a		b		c		d	
---	--	---	--	---	--	---	--

問三

--	--	--

問四

--

問五

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問六

--	--	--	--	--

問七


問八

①				
---	--	--	--	--

②				
---	--	--	--	--

問九

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--

--

--

--

--

--

--

--

--

--

--